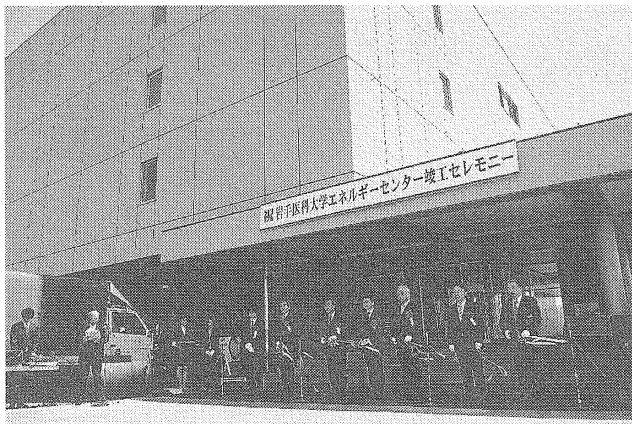


# 圭陵会FAXニュース

発行所：岩手医科大学圭陵会  
 発行人：石川 育成 編集人：前沢 千早  
 連絡先：TEL 019-624-8386 FAX 019-624-8380  
 E-mail: info@keiryokai.gr.jp

## 第44号内容

・エネルギーセンター完成  
 ・岩手医大災害時に電力供給  
 ・新病院、来年2月着工



エネルギーセンターの落成をテープカットで祝う岩手医大関係者ら

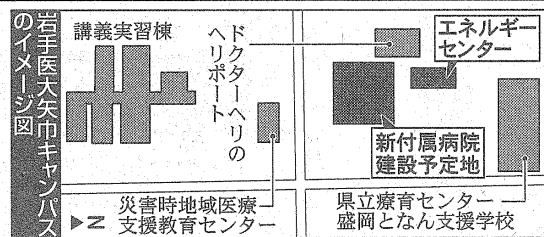
同センターは新付属病院の建設地に隣接する。地上4階建て、延べ床面積は約6千平方メートル。建設費は約70億円。地中熱を冷暖房に利用するほか、ガスと重油で発電し排熱も使うコージェネレーションシステムを導入。太陽光発電や電気自動車を備え、災害時は近隣住民の避難所にもなる。災害に強い病院として県内をはじめ、首都圏などで大災害が発生した場合の患者の受け

## 新病院、来年2月着工

岩手医大(小川彰理事長)が矢巾町藤沢に建設していたエネルギーセンターが完成し、12日現地で落成式が行われた。災害で電力供給が途絶えても病院内の電力を1週間賄うことができる。東日本大震災の教訓を踏まえ、災害時でも安定的に医療を提供できる態勢を整えた。岩手医大は同日、新付属病院について2017年2月に着工する予定を示し、開院時期を19年5月と掲げている。

# エネルギーセンター完成

## 岩手医大災害時に電力供給



最大出力は約4800kwで、新病院の開院に合わせて電力の本格供給を始める。東日本大震災では停電で医療機器が停止するなど病院機能を十分に果たせない事態が相次いだ。エネルギーセンターはこうした教訓を踏まえて整備し

岩手医大の移転計画 盛岡市内丸から矢巾町藤沢周辺の敷地約37畝に施設を移転する計画。2007年の築学部機能の移転を皮切りに、関連施設の整備が進む。新付属病院(千床規模)は11階建てで17年2月の着工、19年5月の開院を予定。新病院開院に合わせ、内丸にある付属病院を外来中心の内丸メデイカルセンター(MC)として当面活用する。病院跡地(2.5畝)の利用策の検討と合わせ内丸MCの新築時期を決める。

テープカットで落成を祝った小川理事長は「災害で外部からのエネルギー供給が完全に絶たれても、病院の全ての診断・治療機能を継続できる。こうした施設は世界で初めてだろう」と説明した。新病院の建設地周辺にはドクターヘリのヘリポートや医学部、薬学部、歯学部の学生が学ぶ講義実習棟、災害時地域医療支援センター・マルチメディア教育研究棟が相次ぎ完成。敷地内に整備する県立療養センター・盛岡となん支援学校は17年度の完成に向け作業が進む。新付属病院は資材高騰に伴う設計見直しで7月に予定していた着工を来年2月に遅らせしたが、開院時期は当初予定通り19年5月を目指している。

### 岩手医大の学部新設認可を諮問

審議会に文科相 馳浩文部科学相は12日、2017年度に学部や大学院などの設置を予定している公私立の大学や短大計55校の計画の認可について、

医学部の新設を申請。多くの科目で英語による授業を実施するなど、海外での医療協力に貢献するとしている。このほか、公私立ともに看護系の学部や専攻の設置が目立つ。

岩手日報 H28.4.13